

7) 植物標本庫 (OCF) の整備と活用

米倉浩司¹・阿部篤志¹

キーワード：生物多様性保全 証拠標本 保存 データベース

1. はじめに

生物の多様性の研究を行って業績を発表する際には、その業績の信頼性を将来にわたって担保するために、公開可能な証拠（多くは標本）の永久保管が求められる。現代的植物標本庫では、標本1点1点に識別番号を付し、重要な標本ではその番号を論文に引用することが求められるようになってきており、標本データベースも一般的となっている。

沖縄美ら島財団総合研究所植物標本庫(以下、OCFと略記する)において、識別番号の体系的付与などの管理が行われるようになったのは令和2年になってからである。令和3年には国際的な植物標本庫登録機関にOCFの名で標本庫の登録を果たし、以後ここに収蔵される植物標本をOCF xxxx (xxxxは標本識別番号)として学術文献に引用することが可能となった。

OCFに収蔵される維管束植物標本には、以下のような特色ある標本が含まれる。

- ・伊波善勇氏採集標本（沖縄県の高校の教員をされていた同氏の収集標本。沖縄県各地に加え奄美大島の標本もあり、現在では採集できない地域のもの、また、「沖縄植物図譜」(2007)¹⁾などに掲載されている、伊波氏の植物画のもととなった標本も含まれている。）
- ・財団職員による採集標本（生物多様性保全に関わる様々なプロジェクトで採集した維管束植物の標本で、特に西表島植物誌編纂事業に絡んで西表島で採集した標本が多い。他にも、絶滅危惧植物の保全のための生育地調査の際に許可を得て採集した標本も含まれる。また、令和

6年度に旧植物管理センターから移動した標本中には、財団OBが学生の時に採集した琉球列島産標本や、本部町や名護市の植物観察会の際の採集標本、海洋博公園の栽培植物標本も多数含まれ、これらも整理中である。）

- ・他研究機関から交換や寄贈で得た標本（職員との交流のある他機関や個人からの交換や寄贈を通じて、沖縄県内外の標本を得る活動も行っている。特に東北大学植物標本庫(TUS)とは標本交換を通じて、南西諸島はもとより日本各地で採集された標本や台湾・オーストラリアなど海外産標本の重複品などを得ている。）

このほかに、前身の海洋博覧会記念公園管理財団当時から展示などの目的で集められてきた世界各地の種子や果実、植物繊維原料の標本もある。入手経路は様々であるが、近年のものでは海岸漂着種子なども含まれている。対応するおし葉標本がないために生物多様性研究の証拠としては使えないが、旧来からの目的である展示には様々に活用されている。管理上はOCFとは別に登録がなされているが、令和5年度からはOCFのおし葉と同時に採集された果実標本も同じ棚で管理するようにした。

2. 令和7年度における植物標本庫の整備状況

1) 標本の貼り付けと収蔵

令和7年度には3395点(令和8年1月末時点：最大番号OCF18191、登録済標本の総数17818点)のおし葉・液浸標本を貼付、登録し、その大部分を分類配列に応じて整理・収蔵した(令和7年11月以降の登録分については一部を除き未収納)。登録標本につ

¹植物研究室

いてはMicrosoft Excel でデータ管理を行い、画像データは別途ハードディスクに保管されている。また、証拠標本を伴わない種子標本についても30点を登録した。登録された標本は、財団職員の採集標本の他に、東北大学からの交換標本や、旧植物管理センターから移転した標本の一部からなる。

2) 防虫管理

整理済標本はカバーに挟んだ状態で、チャック付きのポリ袋に密封して空調の完備した部屋に保管しているが、編組製品などと共同の保管庫のために植物標本の管理上は湿度が高く、研究室の狭隘化のために標本作成などを同一室で行わざるを得ない事情のため、例年チャタテムシなどの害虫が散発的に発生している。虫害への対策として、標本を順番に冷凍庫に入れて殺虫し、さらに温風乾燥を行っている。

3) 標本交換・寄贈

東北大学植物園植物標本庫 (TUS) に、整理済標本の重複品を発送し、交換標本として日本、オーストラリア、台湾、ミクロネシア産の重複標本計 909 点を受け入れて OCF 標本として登録した。

3. 令和7年度における植物標本庫の活用

1) 展示への活用

沖縄県立博物館・美術館企画展「ふわ ぶか もぐ キラ 世界の珍しいタネ展」(令和7年7月19日～8月31日)において、所蔵種子・果実標本377種408品目と、おしば標本9種9点を展示した(写真-1)。また、同館で行われた「夏休み自由研究のタネ展」に、果実・種子標本6種17点とおしば標本5点、液浸標本2点を展示した。

沖縄国際洋蘭博覧会(令和8年1月24日～2月1日)に合わせて熱帯ドリームセンターやんばるギャラリー特別展示「沖縄の珍しい野生ラン展～調査と保全の最前線!～」中で沖縄島において新発見のクロヤツシロランの証拠標本2点を含む沖縄島産のランの液浸標本3点を展示した(写真-2)。



写真-1 沖縄県立博物館・美術館企画展「ふわ ぶか もぐ キラ 世界の珍しいタネ展」における、種子標本とおしば標本展示の様子



写真-2 沖縄国際洋蘭博覧会にあわせてやんばるギャラリーで開催された企画展における、沖縄島初記録のクロヤツシロランの液浸標本展示の様子

2) 博物館実習への活用

令和7年度には2回(8月と11月)にわたって大学生対象の博物館実習の場として植物標本庫を提供し、植物標本の管理法や作成法に関して実習を行った。令和6年度の標本棚の搬入等によって標本室が狭隘の度を増し、その状況は令和7年度にさらに悪化したため、今後は実習環境の改善が図られる必要がある。

3) 学術研究への活用

末次ほか(2025)において、研究員が沖縄島で採集した標本が沖縄島初記録となるクロヤツシロランとして引用された(写真-2)。

Michimoto et al. (2025)において、ヤンバルカラマツ *Thalictrum yambaruense* Michim. et al. が

正式に新種として記載され、職員が過年度に沖縄島で採集した OCF の標本 1 点 (OCF 000470) がホロタイプに指定された (写真-3)。

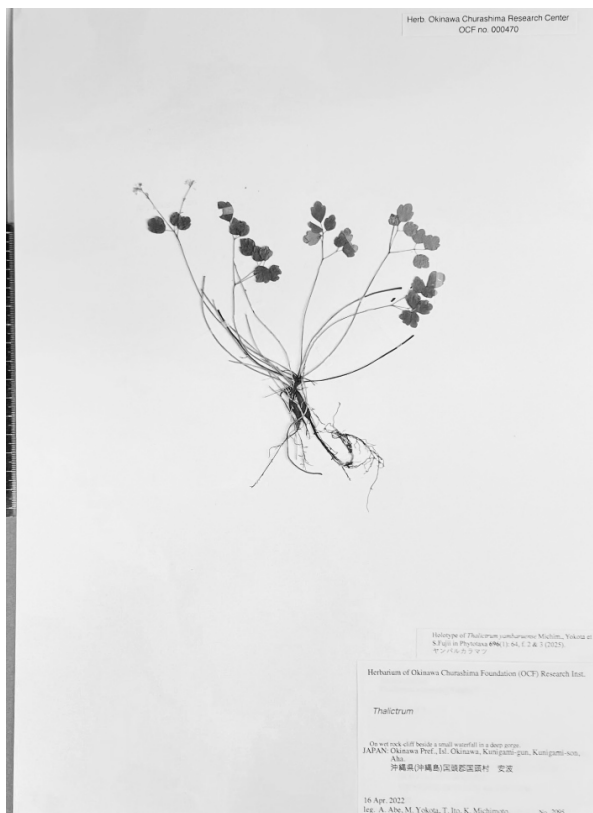


写真-3 ヤンバルカラマツ *Thalictum yambaruense* Michim. et al. のホロタイプ標本。指定に伴って、ラベルの上に発表の場所と年を印刷した紙片が貼付された。

4) 研究のための訪問・標本の貸し出し

今年度は、OCF 標本の研究者への貸し出しは行わなかった。また、調査目的での訪問者は 2 名あった。OCF への標本の収蔵に関する問い合わせは 1 件あり、職員が対応した。また、OCF の標本を閲覧に訪問した外部研究者は 1 名であった。

4. 外部評価委員会コメント

標本室において、令和 7 年度に新規に収集された標本数と、登録された標本の総数がきちんとわかるように提示してもらいたい。

(花城顧問：沖縄美ら島財団前理事長)

参考文献

- 1) 伊波善勇, 2007. 沖縄植物図譜. (財) 海洋博覧会記念公園管理財団.
- 2) 末次健司・阿部篤志. 2025. クロヤツシロラン (ラン科) を沖縄本島に記録する. 植物地理・分類研究 73(1): 101-104.
- 3) Kanae MICHIMOTO, Masatsugu YOKOTA, Atsushi ABE, Shinji FUJII, Daiki TAKAHASHI, Satoshi KAKISHIMA, Chih Chieh YU, Takuro ITO and Masayuki MAKI, 2025. New Species of *Thalictum* (Ranunculaceae) from Okinawa Island in Japan and Its Phylogenetic Implications, Phytotaxa 696(1): 055-070.